

目次

地理

地理―風土と景観史・序章……………一

第一章 自然環境と土地利用……………一

第一節 自然環境の諸条件……………一

一 地形の特徴とそのまとめり……………一

五條市の地形分類(五) 地形区分とそのまとめり(六)……………五

二 吉野川と中央構造線……………八

三段丘地形とその形成過程……………一

第二節 自然環境と考古空間……………一

一 遺跡の立地と自然環境……………一

遺跡と自然環境(六)……………六

二 縄文・弥生時代の遺跡分布……………一七

先土器・縄文時代の人々(二七) 縄文時代の遺跡分布(二八) 弥生時代の遺跡分布(三〇) 吉野川流域の遺跡群(三二)……………一七

三 古墳時代の墳墓と集落……………三

古墳分布とその特性(三三) 集落遺跡の分布と地域類型(三五)……………三

四 奈良・平安時代の五條……………三一

律令制下の宇智郡(三三) 奈良・平安時代の考古空間(三三) 方格地割の復原(三四)……………三一

五 古代遺跡の分布と水田土壌……………四〇

水田土壌(四〇) 水田土壌と遺跡分布(四一)……………四〇

第三節 土地利用の展開……………四四

一 段丘利用の展開……………四四

二 地形と土地利用……………四四

第四節 自然環境の変化……………五三

第五節 気候・気象……………五三

一 概況……………五三

二 気象資料……………五三

三 気候の解説……………五三

気温(六) 風(六三) 雲(六三) 降水量(六三)……………五三

四 気象災害……………六三

風害(六四) 水害(六四) 連続豪雨による吉野川増水(六六) 大雪(六六) 地震(六七)……………六三

第二章 都市構造とその機能……………六六

第一節 都市構造の形成……………六六

一 近世までにおける各村の統合……………六六

二 明治期以降戦前までにおける市街地の停滞と拡大……………六六

第二節 人口の推移と移動……………七五

……………七五

一 人口の推移……………	五五
1 奈良県の人口動向と五條市の位置	
2 人口の推移	
人口動態(七〇) 年齢構成の変化(七〇) 就業構造の変	
動(七三) 集落別人口動向(七三)	
二 人口の移動……………	五九
1 転居	
2 人口の転出入	
三 おわりに……………	九八
第三節 中心地機能と商圏……………	一〇〇
一 はじめに……………	一〇〇
二 中心地としての	
五條の奈良県における位置……………	一〇一
三 広域機能業種の立地状況と	
人口規模との関係からみた集落類型……………	一〇四
四 中心地の地域構造……………	一〇六
中心地の変動(一〇七) 現在の中心地構造(一一〇)	
五 まとめ……………	一一五
第四節 都市化と農地転用……………	一二六
一 土地利用の動き……………	一二六
二 農地転用の展開……………	一二七
第三章 産業基盤の動向とその変化……………	一二三
第一節 商業の性格とその動向……………	一二三
はじめに……………	一二三
五條市の商業特性……………	一二三

第三節 五條内部の購買構造……………	一三〇
一 中心商店街……………	一三〇
二 大型店進出による購買行動の変化……………	一三三
大型店の進出状況(一三三) 通行量の変化(一三三) 購買	
行動の変化(一三三) 消費者意識(一三四)	
第四節 市内商業の総合評価……………	一四三
第五節 工業構造の変容……………	一四四
一 奈良県工業における位置……………	一四四
二 工業の発展過程……………	一四四
三 各工業の性格とその現状……………	一四五
四 工業開発とその問題点……………	一四五
五 木材工業の展開……………	一五〇
五條における木材工業(一五〇) 木材工業の発展過程	
(一五五) 不況下における製材工業の対応(一六一) 割	
箸業の動向(一六〇) 今後の展望(一六二)	
第六節 農業の性格とその動向……………	一六七
一 農家と農業経営……………	一六七
奈良県内における位置(一六七) 変化する農家と経営	
耕地(一六八) 農業集落別動向(一七〇)	
二 果樹作とパイロット事業……………	一七六
三 開拓農業の展開……………	一八〇
開拓地の設定(一八〇) 1 開拓された年代及びその規	
模(一八二) 2 開拓地の土地条件(一八六) 3 開拓要因	
及びその分類(一九〇) 開拓地の推移(一九二) 定着し	

た開拓地と定着しなかった開拓地(一九七)	
四 農業の地域区分—因子分析による—……………	一九八
第七節 林業の性格とその動向……………	二〇六
一 森林の分布……………	二〇六
二 林家の動向……………	二〇七
三 林業経営の動向……………	二〇八
第四章 集落と生活空間……………	二一〇
第一節 集落の立地と形態……………	二一〇
第二節 集落の生活空間……………	二一四
第三節 農業集落の構造的変化……………	二一九
第四節 各集落の諸相……………	二二六
一 集落立地のタイプ……………	二二六
二 河岸段丘に立地する集落……………	二三〇
三 扇状地に立地する集落……………	二三四
四 山間部に立地する集落……………	二三七
第五節 村落と水利……………	二四〇
一 はじめに……………	二四〇
二 灌漑水利の形態……………	二四二
三 水利システムの二例……………	二四四
岡野大池掛りの場合(二四五) 黒駒町平池掛りの場	
合(二四六)	
四 水利秩序の変化とその要因……………	二五三

五 おわりに……………	二五三
第五章 交通網の整備と都市計画の展開……………	二五三
第一節 交通網の整備……………	二五三
一 道路網の整備……………	二五三
二 バス交通……………	二五六
三 鉄道交通……………	二五九
第二節 都市計画の展開……………	二六三
一 はじめに……………	二六三
二 都市計画の背景……………	二六四
三 都市計画の推移……………	二六五
昭和四十五年「五條市総合開発計画」(二六五)	
昭和四十九年「五條市総合計画」(二六六)	
昭和五十六年「見直し計画」(二六六)	
四 おわりに……………	二六八

通史

第一章 原始時代……………	二七三
第一節 縄文時代の遺跡と遺物……………	二七三
東阿田塚穴遺跡(二七三) 東阿田樋口遺跡(二七四) 切	
畑遺跡(二七五) 原遺跡(二七五) 上島野遺跡(二七五)	
下島野遺跡(二八二) 靈安寺遺跡(二八二) 良峯遺跡	
(二八二) 中遺跡(二八二) 南仙山遺跡(二八二)	

第二節 弥生時代の遺跡と遺物……………二六三

原遺跡(二六四) 野原遺跡(二六六) 引ノ山遺跡(二六九)

中遺跡(二七〇) 六倉と小島遺跡(二七〇) 堺筋遍照寺遺跡(二七六) 滝遺跡(二七六) 火打遺跡(二七七)

第二章 古墳時代……………二九〇

第一節 概 観……………二九〇

第二節 各地域の古墳……………三〇一

一 近内(向山)丘陵……………三〇一

罐子塚古墳(三〇二) 近内六号墳(三〇三) 向山北支群(三〇三) 近内三号墳(三〇七) 近内古墳群(三〇七) 西(三〇七) 山支群の調査(三〇七) 丸山古墳(三一) 西山古墳(三三三) くの山の山古墳(三四) 五條猫塚古墳(三七) 青墓古墳(三三) 大墓古墳(三三) 今井一号墳(三三) 勘定山古墳(三三)

二 引ノ山丘陵とその周辺……………三二五

引ノ山古墳群(三二五) 塚山古墳(三二六)

三 吉野川上流域の古墳……………三三三

大阿太一三号墳(三三三) 南阿田大塚山古墳(三三六) コウモリ塚古墳(三三〇)

四 吉野川下流域の古墳……………三四一

犬飼大師塚古墳(三四三)

第三節 五條市周辺の窯跡……………三四三

今井窯跡(三四三) 天神瓦窯(三四六) 荒坂瓦窯(三四六) 牧代瓦窯跡(三四六) 阿田窯跡(三四六) 居伝瓦窯跡(三四六) 岡瓦窯跡(三五〇) 西山窯跡(三五〇)

第四節 靈安寺塔跡の調査……………三五二

第五節 市内出土の唐式鏡……………三五四

海獸葡萄鏡(三五四) 高士彈琴鏡(三五五)

第三章 古 代……………三五六

第一節 阿 陀……………三五六

阿陀文化(三五六) 阿田の隼人(三五九)

第二節 内氏と武内氏……………三六二

第三節 荒木神社と浮田の社……………三六七

第四節 阿太鷄養……………三七三

第四章 奈良朝時代……………三八三

第一節 宇智郡の成立……………三八三

ウチの郡名(三八三) ウチの地名(三八四)

第二節 郡郷と条里……………三八六

郡家の位置(三八六) 四郷の概域(三八七) 宇智郡の条里制(三八九)

第三節 内野への行幸……………三九二

内野遊獵(三九二) 真土越え(三九四)

第四節 郡内居住氏族と山代忌寸真作……………三九六

四比氏と田井伊美古(三九六) 山代忌寸の墓誌(三九六)

第五節 宇智郡関係の諸史料……………四〇一

狭嶺山(四〇一) 弘福寺領(四〇一) 大倭国正税帳(四〇一)

第六節 楊貴氏の墓誌……………四〇三

古備真備亡母の墓誌(四〇三) 楊貴氏(四〇六)

第七節 藤原氏と栄山寺……………四〇九

栄山寺の創建(四〇九) 藤原武智麻呂の賜田(四一一) 前山寺(四一一) 仲麻呂と八角円堂(四一四) 武智麻呂の墓(四一五) 良継の墓(四一六) 豊成の寺田施入(四一七) 宇智川磨崖碑(四一七)

第八節 井上皇后と他戸皇太子……………四一九

宇智郡没官の宅(四二〇) 宇智陵(四二二)

第五章 平安時代―貴族政治の展開……………四二四

第一節 政局の転換……………四二四

概況(四二四) 政争の犠牲者(四二四) 平安遷都と薬子の变(四二六)

第二節 律令制の衰運……………四二六

政局の安定(四二六) 藤原北家の興隆(四二九) 延喜天曆時代(四三〇) 農民の動向(四三〇)

第三節 藤原氏の発展……………四三二

阿陀墓と栄山寺(四三二) 栄山寺の隆盛(四三三) 栄山寺の動搖(四三三) 康成の物語(四三五)

第四節 御霊信仰と真言密教……………四三六

精神生活の転換期(四三六) 御霊信仰(四三六) 靈安寺・御霊神社(四三六) 御霊信仰の流布(四三六) 葛城山の信仰(四三六) 弘法大師伝説(四三六) 文化の密教化(四三六)

第五節 摂関政治と院政……………四四四

摂関政治(四四四) 莊園の発生(四四四) 受領の勢力……………四四四

第六節 莊園の姿……………四四七

栄山寺領(四四七) 興福寺の進出(四四五) 金峰山の進出(四四五)

第七節 高野御幸記―火打崎御所……………四五一

第六章 中 世……………四五三

第一節 莊園と武士……………四五三

概観(四五三) 興福寺の進出(四五三) 宇野氏の興隆(四五三) 莊園と村落(四五六)

第二節 武士の発展……………四七九

南北朝と武士(四七九) 一乗院の宇智郡支配(四八二) 両畠山氏の角逐と宇智郡武士(四八二) 村落の発達(四八二)

第三節 中世村落の形成―坂合部郷の場合―……………五〇一

はしがき(五〇一) 坂合部郷の性格(五〇二) 坂合部郷の成立(五〇二) 農民の動き(五〇二)

第七章 近 世……………五〇五

第一節 封建領主支配の徹底……………五〇五

織豊政権(五〇五) 豊臣氏と郷村(五〇六) 文禄検地(五〇六) 領主の変遷(五〇六)

第二節 近世領主と村々の組織……………五〇九

領主・代官(五〇九) 近世の村々とその制(五〇九) 年貢の徴収(五〇九) 共同の生活(五〇九) 農民の構成……………五〇九

(五〇)

第三節 経済生活の発展…………… 五七

一 産業の発展…………… 五七

商品経済(五七)

二 交通と商業…………… 五九

交通路(五九) 筏流し(五九) 塩(五九) 伝馬所(五九)

三 町家の発展…………… 五九

第四節 社会生活の諸相…………… 六〇

質素節約(六〇) 庶民生活の窮乏(六〇) 水害と火災(六〇)

第五節 近世の商品流通…………… 六三

第八章 近代…………… 六三

第一節 地方自治の展開…………… 六三

大区小区制(六三) 郡区町村の再編(六三) 町村制の成立(六四) 町政の整備(六四) 町政の発展と生活(六五)

第二節 商工業の発達…………… 六三

商工業の発達(六三)

第三節 交通の発達…………… 六六

第四節 教育…………… 七六

学校教育の発足…………… 七六

国民皆学教育の観(七六) 学校のはじまり(七七) 学制の普及(七七) 教育令と改正教育令(七七)

教員の養成と五條師範学校(七五)

教育制度の確立…………… 七五

国家の教育統制の強化(七五) 宇智郡教育会と教員組合会(七五)

教育の展開…………… 七三

義務教育六カ年に延長(七三) 阪合部村学区廃止・統合問題(七三) 幼稚園(七三) 実業教育(七三) 奈良県立五條中学校(七三) 奈良県立五條高等女学校(七三)

戦時下の教育…………… 七六

挙国一致の体制(七六) 国民学校の誕生(七六)

民主主義の教育…………… 七九

民主的学校制度の教育(七九) 健康教育(七九) 社会教育(七九) 水泳日本一を誇る(七九)

第五節 教育の発展…………… 七四

五條市立五條幼稚園(七四) 五條市立五條小学校(七四) 五條市立牧野小学校(七四) 五條市立北宇智小学校(七四) 五條市立阿太小学校(七四) 五條市立宇智小学校(七四) 五條市立野原小学校(七四) 五條市立阪合部小学校(七四) 五條市立大深小学校(七四) 五條市立五條中学校(七四) 五條市立五條東中学校(七四) 五條市立野原中学校(七四) 奈良県立五條高等学校(七四) 学校法人智弁学園中学校・高等学校(七四)

第六節 歴代公職者名一覧…………… 七五

市長(七五) 助役(七五) 収入役(七五) 市議会議長…………… 七五

各説

第一章 文 学…………… 七三

第一節 上古文学…………… 七三

古事記・日本書紀(七三) 日本書紀(七三) 万葉集(七三)

第二節 中古文学…………… 七二

物語(七二) 説話文学(七二) 和歌(七二)

第三節 中世文学…………… 七六

和歌(七六) 連歌・紀行(七六) 戦記文学(七六)

第四節 近世文学…………… 八〇

和歌・狂歌(八〇) 紀行・日記(八〇) 俳諧(八〇) 漢詩文(八〇) 戯曲(八〇)

第五節 近代・現代文学…………… 八六

児童文学(八六) 短歌・俳句(八六) 詩(八六) その他の小説と雑誌(八六) 川柳・俚謡・情歌その他(八六)

第二章 神社・寺院、文化財…………… 八三

はじめに…………… 八三

川南(八三) 川北(八三)

〔五條地区〕…………… 八六

講御堂寺(八六) 惠美須神社(八六) 八幡神社(八六) 八王子神社(八六) 常楽院(八六) 宝満寺(八六) 称念寺(八六) 統神社(八六) 井上院(八六) 極楽寺(八六) 桜井寺(八六) 西方寺(八六) 二見神社(八六) 御霊神社(八六) 大日寺(八六) 遍照院(八六) 生蓮寺(八六) 明西寺(八六) 妙住寺(八六) 慈門寺跡(八六)

〔野原地区〕…………… 八六

野原・御霊神社(八六) 御霊神社(八六) 八幡神社(八六) 威徳寺(八六) 阿弥陀寺(八六) 西光寺(八六) 法専寺(八六) 八幡神社(八六) 大山祇神社(八六) 観音寺(八六) 十輪寺(八六) 市杵島神社(八六) 弁天宗総本山(八六) 円通寺(八六) 金剛寺(八六) 薬師寺(八六) 禅洞寺(八六)

〔宇智地区〕…………… 八七

宇智神社(八七) 安生寺(八七) 西明寺(八七) 延命寺(八七) 八幡神社(八七) 荒木神社(八七) 御霊神社(八七) 若宮神社(八七) 観音寺(八七) 大王寺(八七) 竜池神社(八七) 月見寺(八七) 栄山寺(八七) 御霊神社(八七) 観音寺(八七) 御霊神社(八七) 東福院(八七)

〔牧野地区〕…………… 八六

西方寺(八六) 地福寺(八六) 大善寺(八六) 御霊神社(八六) 八幡神社(八六) 成願寺(八六) 高天佐太…………… 八六

雄神社(九〇四) 大沢寺(九〇四) 蓮花寺(九〇九) 八阪神社(九〇七) 琴平神社(九〇七) 金光寺(九一〇) 一尾背神社(九〇〇) 高天原野神社(九〇九) 草谷寺(九一〇) 安井寺(九一一) 御霊神社(九一四) 山王神社(九一四) 八阪神社(九一五) 西福寺(九一五) 祇園牛頭天王社(九一六)

〔阪合部地区〕……………九一六

西金寺(九一六) 八王子神社(九一七) 妙音寺(九一八) 念仏寺(九一九) 平田寺(九一九) 阿弥陀寺(九二〇) 大性神社(九二〇) 落仙神社・御霊神社(九二〇) 福生寺(九二一) 天照大神社(九二二) 稻荷神社(九二二) 延命寺(九二〇) 医光寺(九二二) 菅原神社(九二三) 釈迦寺(九二三) 春日神社(九二四) 専崇寺(九二四) 観音寺(九二五) 大屋比古神社(九二五) 金剛寺(九二六) 西性寺(九二六) 香和津神社(九二六) 地藏堂(九二七) 金毘羅神社(九二七) 宝安神社(九二八) 転法輪寺(九二八) 狩場明神・丹生明神社(九二九) 釈迦寺(九二九) 鼓島神社(九三〇) 隆盛寺(九三〇) 正法寺・浄土寺(九三〇) 観音寺(九三〇)

〔北宇智地区〕……………九三〇

地福寺(九三〇) 御霊神社(九三二) 八幡神社(九三三) 天城寺(九三三) 竜智神社(九三三) 阿弥陀寺(九三三) 浄心寺(九三三) 福徳寺(九三三) 西林寺(九三三) 地藏寺(九三三) 鳳凰寺(九三三) 御霊神社(九三三) 御霊神社(九三三) 新城院(九三三) 安楽寺(九三三) 宮前尊徳神社(九三三) 多賀神社(九三三) 大日寺(九三三)

〔南宇智地区〕……………九三三

慶霊安寺(九三三) 満願寺(九三三) 猿田彦神社(九三三) 御霊神社(九三三) 日吉神社(九三三) 熊野神社(九三三) 地藏寺(九三三) 来迎寺(九三三) 八幡神社(九三三) 慶大

悲庵(九三〇) 良峯寺(九三〇) 良祥寺(九三〇) 宝蔵寺(九三〇) 火雷神社(九三三) 御霊神社(九三三) 丹生川神社(九三七) 光明寺(九三六) 真竜院(九三九) 成蓮院(九三九) 吉祥寺(九三九) 不動堂(九三九)

〔大阿太地区〕……………九三六

八幡神社(九三六) 西方寺(九三七) 慶観音堂(九三七) 御霊神社(九三六) 大野神社(九三六) 地藏寺(九三六) 御霊神社(九三六) 常福寺(九三六) 行圓寺(九三六) 阿陀比売神社(九三六) 観音寺(九三六)

〔南阿田地区〕……………九三六

諏訪神社(九三六) 天福寺(九三六) 竜光寺(九三六) 妙音寺(九三六) 御霊神社(九三六) 地藏院(九三六) 妙信院(九三六) 八幡神社(九三六) 阿弥陀寺(九三六) 阿弥陀寺(九三六) 天照皇大神社(九三六) 地藏寺(九三六) 日吉神社(九三六) 福林寺(九三六) 八阪神社(九三六) 御霊神社(九三六) 源竜寺(九三六) 慶元光寺(九三六) 岩神社(九三六)

第三章 建築……………九三六

第一節 神社建築……………九三六

概説(九三六) 中之町御霊神社本殿(九三六) 境内社早良・他戸神社(九三六) 岡町八幡神社本殿(九三六) 久留野町御霊神社本殿(九三六) 岡町御霊神社本殿(九三六) 霊安寺町御霊神社本殿(九三六) 近内町御霊神社本殿(九三六) 若宮社本殿(九三六) 御霊神社・落仙神社本殿(九三六) 阿陀比売神社本殿(九三六) 境内社八坂神社本殿(九三六) 狩場明神社・丹生明神社本殿(九三六) 下島野町御霊神社本殿(九三六)

第二節 寺院建築……………九三六

若宮社本殿(九三六) 統神社本殿(九三六) 二見町御霊神社本殿(九三六) まとめ(九三六)

概説(九三六) 栄山寺(九三六) 八角堂(九三六) 本堂(九三六) 安生寺本堂(九三六) 転法輪寺(九三六) 本堂(九三六) 庫裡(九三六) 表門(九三六) 念仏寺本堂(九三六) 生蓮寺本堂(九三六) 金剛寺庫裡(九三六) 明西寺本堂(九三六) 西明寺本堂(九三六) まとめ(九三六)

第三節 民家建築……………九三六

農家(九三六)

岡松家住宅(九三六) 植田義雄家住宅(九三六) 西谷重俊家住宅(九三六) 北田喜一家住宅(九三六) 水取義朗家住宅(九三六) 榎野久忠家住宅(九三六) 林義一家住宅(九三六) 北山茂文家住宅(九三六) 大飼正一家住宅(九三六)

栗山正一家住宅(九三六) 下辻又七家住宅(九三六) 栗山亮作家住宅(九三六) 中修自家住宅(九三六) 東島島作家住宅(九三六) 柏田久太郎家住宅(九三六) 町並に(九三六)

第四章 中世城郭跡……………九三六

概説(九三六) 滝城(九三六) 島野城(九三六) 栄山城(九三六) 居伝城(九三六) 大岡山城(九三六) 大岡平城(九三六) 今井城(九三六) 二見城(九三六) 深間城(九三六) 桜井氏館(九三六) 坂合部平城(九三六) 坂合部山城(九三六) 野原城(九三六)

第五章 祭りと行事……………九三六

第一節 神 饗……………九三六

第二節 御飯屋……………九三六

第三節 念仏寺陀々堂の鬼走り……………九三六

第四節 雛流し……………九三六

第六章 動物……………九三六

第一節 鳥 獣類……………九三六

第二節 水生動物……………九三六

魚類(九三六) 水生昆虫(九三六) 淡水貝類(九三六)

第七章 植物……………九三六

第一節 天然記念物……………九三六

二見町大ムク(九三六) 笹の木(九三六)

第二節 地区別植物……………九三六

五條地区(九三六) 野原地区(九三六) 宇智地区(九三六) 牧野地区(九三六) 阪合部地区(九三六) 北宇智地区(九三六) 南宇智地区(九三六) 南阿太地区(九三六) 大阿太地区(九三六)

第三節 栄山寺・小島山の植物……………九三六

栄山寺の植物(九三六) 小島山の植物(九三六)

第四節 「市」の木「市」の花……………九三六

市の木(九三六) 市の花(九三六)

第五節 栄山寺及び小島山植物目録……………110五

シダ植物(110六) 種子植物(110六) 被子植物(110六)
単子葉植物(1110)

第八章 金石文……………111

はじめに……………111

第一節 墓誌銘……………111

山代忌寸真作墓誌(111三) 楊貴氏墓誌(111七)

第二節 磨崖碑……………117

第三節 石灯籠と石幢……………110

栄山寺石灯籠(110) 講御堂寺石灯籠(111) 中
之町御霊神社石灯籠(111) 竜池神社石灯籠(111)

西福寺石幢(111)

第四節 宝篋印塔……………114

大沢寺宝篋印塔(114) 平田寺跡宝篋印塔基礎
(115) 中筋墓地宝篋印塔基礎(115)

第五節 金工品……………116

栄山寺梵鐘(116) 大日寺梵鐘(117)

第六節 神像・仏像・面……………118

御霊神社・女神像(118) 金光寺・阿弥陀如来立
像(118) 釈迦寺・釈迦如来像(118) 栄山寺・
十二神将台座(118) 念仏寺・追儺面(118) 御
霊神社・御供櫃(118)

第七節 御霊神社墨書銘……………118

御霊神社本殿(118) 末社早良神社社殿(118)

末社他戸神社社殿(118)

第八節 瓦……………114

吉祥寺丸瓦(114) 栄山寺平瓦(115) 牛玉版木
(115)

第九節 一石五輪塔……………115

形式の変遷(115) 一石五輪塔の分布(115)

一石五輪塔の銘文(116) 一石五輪塔の保存(116)

第九章 言語……………115

第一節 概説……………115

調査の概要(115) 音韻・アクセント(116)

語法(116)

第二節 語彙とその分布……………116

動物(116) 人体語と動作の語彙(116) 植物
(116) 遊びの語彙(116) その他の語彙(116)

第三節 方言区画……………117

第四節 方言文例……………118

第十章 天誅組の変……………118

第一節 はじめに……………118

第二節 尊王攘夷運動……………118

安政の政局(118) 尊王攘夷の志士(118) 公武
合体(118) 尊攘運動の激化(119)

第三節 天誅組拳兵始末……………119

大和行幸の先鋒(119) 大和への進撃(119)

第十三章 吉田松陰・森田節齋と五條……………117

松陰・節齋・三山(117) 杜預蔵と節齋(117)

十津川郷士と五條(117)

調査委員……………118

(市史題字・吉田松陰書簡に拠る)

第五節 歴史的意義……………113

恐怖と混乱(113) 難洪の日々(113) 騒動の余
波(113)

第四節 天誅組の変と五條……………119

五條代官所襲撃(119) 五條御政府(119) 八月
十八日の政変(119) 天辻に移陣(119) 十津川
募兵(119) 高取城の攻撃(119) 南山での防戦
(119) 天誅組の潰滅(119)

第五節 社会運動……………116

第一節 はしがき……………116

第二節 樽井藤吉の東洋社会党と借地虚無党……………116

第三節 櫻井徳太郎と自由民権運動……………116

第四節 水平運動……………116

第五節 農民運動……………116

第六節 労働運動……………116

第七節 戦後初期社会運動の概観……………116

第十二章 地名—古代地名考……………115

宇智(115) 阿陀(115) 五條(115) 坂合部
(115) 火打(115) 犬飼(115) 荒坂—荒木坂
(115) 三在(115) 須恵(115) 滝(115) 島
野(115) 今井—有家・三箇(115) 北山・二見
(115)

第十三章 吉田松陰・森田節齋と五條……………117

松陰・節齋・三山(117) 杜預蔵と節齋(117)

十津川郷士と五條(117)

調査委員……………118

(市史題字・吉田松陰書簡に拠る)